

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

ことばとして主は降誕され

ブロックアドバイザー 蔦田 崇志



「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。」

（ヨハネ一章14節）

聖誕節を迎えるにあたって心に通う聖言の一つです。最近、ことばで人に思いが伝わる率は1割以下だというコメントを聞いてたいそう失望しました。何せ召されて毎週ことばで福音をお伝えする者ですから（但しこの説も、発表した心理学者メラビアンの意図が正しく解釈されないことが多いとか）。けれども思い当たる節はありません。ことばを発信したからと言って思いが全て伝わったと安堵するものではありませんし、ことばを受け取ったときに容易にその意図を把握したと言つて喜んで悲しんだりすることも賢明ではありません。それでありながらことば一つで救われるという経験があれば、その真逆の痛みを被ることもあります。無論思いを表現する術はことばだけではありません。絵画や音楽、ジェスチャーや表情等いくらでもあります。それでもことばという術は格別です。そしてことばを駆使して伝達するのが人の大きな特色でもあります。何とも心許ない限りです。

そのことを考えますとヨハネ福音書の冒頭は実に大胆な宣言です。「初めにことばがあった」、そして「ことばは神であった。」何と確実なことばでしょう。神のことばは発せられると同時に実現することを思い起こします。すべてのものはそのようにして創造されたのです。私たちのいのちも、希望の光も、打ち勝つ正義もことばである神のみわざです。同じことばでも絶

望的な程に本質が異なります。私たちが如何に知恵と力を注ぎ出して完成され洗練されたことばを生み出したところで到底近づくことなどできないほど、初めにあったことばと、私たちのことばとは異質なものです。ところが同じヨハネがクリスマススの出来事について「ことばは人となって」と伝えるのです。しかもイエスさまは異質な世界に迷い込まれたのではなく、「ご自分のところ」として「私たちの間に住まわれた」のです。人智では解けないパラドクスだと驚嘆致します。何の益や徳があつて世界を創造することばが、意志や思いを満足に伝えることさえ困難な混沌の世界に住まわれるのでしょうか。しかもその混沌の中で確実にいのちを与え、神の子となる特権を分け与え、栄光と恵みとまことを惜しみなく拝させてくださるのです。

今年のクリスマスもこの偉大なパラドクスに驚嘆しつつ、恵みとまことを存分に受けて、栄光に圧倒されようではありませんか。そしてこの年受けた傷や痛みを癒して頂き、苛立ちや憤りを鎮めて頂き、不安や恐れを拭いて頂いて次の歩みに備えさせて頂きましょう。最後に、神は人に御心を、福音を知らせなさるのに

「ことば」を用いなくはなさいました。思想が伝わる率が1割にも満たない、それでありながら人のいのちを左右する力さえ持つことばでご自身の御心を著しなされたのです。私たちはその「道の光」であることばを頼りに、教えられ、戒められ、矯正と義の訓練を頂戴し、主の御心に則つて整えられていくようではありませんか。

目次

- ことばとして主は降誕され……蔦田崇志……1
- クリスマス霊想、教育局運営委員会、JEF 理事会……2
- 教団運営委員会、YSB報告、厚生委員会……3
- 海外トピックス、国内教会局、災害対策委員会……4
- 関東聖化大会報告、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

クリスマスの 霊想



「シマウマ」のフレッド



WGM 宣教師
ホリー・ミュールハイゼン

私の両親はWGMの宣教師でした。それで私はケニアのナイロビで育ちました。そこは赤道からわずか141キロしか離れていません。なのでクリスマスはいつも寒さや雪と無縁な中で過ごしました。実際すごく暑かったです。

私たちの宣教団では、年2回の会議の1回をクリスマスの直前にテヌウエク病院で行っていました。すべての家族が勢揃いします。会議の初日、大人たちが議事会をしている間、子どもたちは楽しく遊んでいました。二日目はお待ちかねのクリスマス・パーティーです。それぞれの宣教師たちが歌を歌ったり、詩を朗読したり、短い劇をしたりします。そしてサンタの登場です。両親たちから小さな子どもたちへのプレゼントを携えて！

ある年、二人の小さな女の子が歌を歌いました。「今年、サンタはシマウマで」です。彼女たちの歌が終わるや、私たちは外から「ホ、ホ、ホ」の鳴き声を聞いたので

す。私たち全員がサンタを見に外に駆け出しました。シマウマは野生種なので、「飼い馴らす」必要がありません。でも誰かがフレッドという地元のロバにペンキで黒い縦縞を塗ったのです。「シマウマ」のフレッドとサンタが到着しました。雪が思い浮かばない小さな女の子にとって、そりやトナカイよりもずっと納得いくものでした。

いろいろな国で生活できたことは、私には大きな恵みでした。人々は違った仕方です。クリスマスをお祝いします。ちょうどサンタが赤道にぶさわしかつたように、独創的なやり方で福音を分かち合うのを私はたくさん見てきました。

ルカの福音書二章9〜14節で、羊飼いたちに現れた御使いが語りかけたことばを私たちは知っています。メシア誕生にまつわる聖書の預言を引用し「大きな喜びを告げ知らせ」と語りかけました。羊飼いたちはすぐに行動を起こします。御使いたちの言ったことは本当か、……彼らは御使いたちのことばを理解します。そしてそれがすべての人々への福音だと彼らは知ったのです。私たちは今、友人や家族、近所の人たちと分かち合う、すばらしい福音のメッセージを与えられています。永遠的な価値のあるこの音信を分かち合うには、時代も言葉も隔たっています。主を証しするために、今どんな言葉が使えるでしょうか。クリスマスの真の意味を分かち合うために、どんな方法が見つかるでしょうか。

教育局運営委員会

次世代育成のために 活動を重ねています

教育局長 小川宣嗣

10月21日、本年第2回目の教育局運営委員会を開催しました。

教育部・信徒教育課は、10月8〜9日の信徒伝道者養成課程スクーリングについて報告があり、9名の参加者で、北田直人師を講師に「牧会者のマインド」の学びがなされました。生涯学習課は、7月の関西地区・牧師夫人研修会（15名参加、テーマ「説教」、講師・釣俊栄師、梅田登志枝師）や明年年会時の若手牧師研修会のテーマ等確認（「牧師のセルフケア」「牧師の家庭」）がなされました。

青少年部・青年課は、8月11〜13日に開催されたYS・BTC（講師：大兼久芳規師、37名参加）、各地区の青年の働き（九州大会・参加者43名、近畿ユース聖会・28名など）の報告がありました。

中高生課の第12回とにキャンは、安藤理恵子師を迎え第12回目を開催、68名の中高生が参加し、それぞれに決心をして立ち上がって行ったとの報告がありました。

教会学校課は、各地域教会のCS活動支援のため、ぬりえ紙芝居に新たなエピソードを製作中です。また、教材ヒントのホームページへのアップ等を行っています。

JEF理事会報告

日本福音連盟理事会から 次期大会は福岡で開催します 多面的な協力の態勢が

教団代表 内山 勝

10月28日、浅草橋教会（ウェスレアン・ホーリネス）を会場に理事会が行われ、当教団からは、矢木良雄師と内山が出席しました。

日本福音連盟は1951年に創立され、現在は12教団・団体によって構成されており、理事会は各教団の代表者によるサミットのな集まりとなっております。

日本福音連盟は、福音的信仰、特に聖化の宣揚につとめることを目的としており、毎年、総会と大会を行い、新聖歌の発行を事業として行っています。

10月の理事会は、6月の総会で理事長に就任した小菅剛師による司導で進められました。

主な議事は、次の通りです。

- ・6月に行われた第52回総会・山形大会の報告がなされました。幸いな大会となり、地方色を生かした幸いな研修もあり感謝でした。
- ・2020年の第53回総会・福岡大会について、日時は6月14日（日）〜16日（火）、会場は日本イ

エス・キリスト教団福岡教会で行われることになりました。同教会の横田法路師が開催地実行委員長となって準備を進めています。特に九州の諸教会からの参加が期待されています。

・2021年6月20日〜22日に行う総会・大会の候補地がいくつか上げられましたが、浜松を中心とする遠州地区での開催を願うこととなりました。

・機関紙「時報」は、来年1月に第100号を発行することとなり、担当の矢木良雄師が、鋭意準備を進めています。

・神学校協力委員会からは、2021年1月25日〜26日、浅草橋教会を会場に、第2回目の合同リトリートを開催する予定であることが報告されました。今後も、神学校同士の連携・協力を強めて行く方向性が確認されました。

・最後にそれぞれの教団の課題を分かち合い、共に祈ることができたことは幸いでした。



教団運営委員会から……

来年度に向けて

集中的な審議の時に

広報 大兼久芳規



2021年にはケニアに宣教訪問を送りたいと願っています。

〈教育局〉

教職試験のスケジュールを7、10月末までの4か月の執筆期間でしたが、来年から1〜3月申請、4〜9月末までの6か月間の執筆期間に変更されました。

〈信徒局〉

来年4月29日に開催予定の「イムヌエル信徒フォーラム」は、アンケート結果より「家庭（クリスチャンホーム）建設」をテーマに行われます。講師はルーテル学院大学・白井幸子先生です。

〈財務〉

各局の一般会計と特別会計の来年度の予算の検討・確認がなされました。また教団全体の会計の明瞭性を高めるために、単式から複式簿記への変更を進めています。

〈来年の年会〉

聖会Ⅱは、中高生のとにキャンメンバーを中心に聖会を持ち、私たちの群れの青年伝道を見、知り、支える年会となればと願っています。聖会Ⅱの講師は、夏の「とにキャン」で熱く語ってくださった安藤理恵子先生です。

〈組織改革〉

各教区から出された意見を聴かせていただきました。その懸念・課題への修正案が考慮され、丁寧な説明、進め方を続けていくことが確認されました。

第4回 YSBリトリート報告

よろこび〜「ねばならない」じゃなくて

11月3日(日)〜4日(月)



牧師委員 吉村和記

■継続は、恵みなり

信仰の世界では、継続は「力」だけでなく、恵みになるなどと改めて実感した今回のYSBRिटリートでした。20代でYSを立ち上げ、「全国大会」を築き上げてきたメンバーが、今や30代4代になり、そのうちの何組かはカップルとなり、彼らの小さな子どもたちが、リトリートの会場うしろで一緒に神さまを礼拝している。

「ああ、幸せな絵だなあ」と、私はつくづく恵みを感じました。思わず「続けて来て良かったね」と声をかけたことでした。

■今回のテーマ「よろこび〜「ねばならない」じゃなくて

いつの間にか信仰生活を律法的に捉え、息苦しく感じるようになり、「なぜ礼拝?」「どうして奉仕を?」と立ち止まってしまうことがあるかと思えます。そのことをごまかしたり、押し流したりせず、委員たちはそれをテーマに掲げて同世代のクリスチャンたちと本気

で向き合おうとしました。

■テーマに沿ったメッセージ

◆「一夜目を葛田聡毅先生が、外してはならない「ねばならない」もあること。それを主ご自身は喜びをもって担って下さったと、十字架の恵みを示し、主と喜んで歩むよう励まして下さいました。(ヘブル11:2) ◆二日目は吉村が、自分たち側の喜び以上に、私たちの存在丸ごと絶対肯定し、喜んで下さっている神さまがおられること。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。(マタイ17:5)のみことばから父なる神さまと御子イエス様との間にあった喜びの関係を語りました。

■テーマに沿った聖書の学び

「喜び」をテーマにした聖書箇所7か所を7つのグループで1つずつ選んで読み、教えられたことを自由に語り合えたことも、まさに互いに喜び合えたひと時でした。恵みにあふれたYSBでした。



厚生部からのお知らせ

高齢化に伴う さまざまな課題に 教団としても 取り組みます

厚生部 北田直人

●各教会で牧師も信徒も共に学びの時を

8月2日に認知症対策検討会を行いました。だれにも起こりうる認知症について、各教会でも話し合っていたいただき、正しい理解を持つことにより、奉仕や教会生活ができるだけ継続できるようにしていただけたらと願っております。

どのように話し合えば良いのかについては、年会の研修で取り上げます。さらに里村委員長のセミナーDVDを各教会に送付する予定です。これらを用いて、各教会で話し合いの時を持っていただければ幸いです。

●同世代の牧師で学びの時を

これからの生活について考え、備えていただくための1泊研修会を2020年から開始いたします。ステップ1の対象者は70歳の牧師で、6月29日にベテルハウスで行います。ステップ2の対象者は75歳以上の牧師で、10月19日はベテルハウスで、11月16日は呉ベタニアホームで行います。参加費用については、教団が負担いたします。詳細は後日お知らせいたします。

国内教会局から

教会建設の務めに
待ち望むアドベント

待降節を迎えましたお互い、救い主誕生の出来事に心を傾けながら多くの語り掛けを頂きましょう。思えばクリスマスは多くの聖徒たち、また神の民の待望の信仰によって迎えられるものでした。シメオ



「何もないという状態から宇宙ができる」は「外的要因」つまり「神」が宇宙を創り出したと結論付ける方が理にかなっていない。「何か他の物」が特異点を生み出した。そして僕には、その「何

んは民が慰められることを、アンナは主の民と共に贖いを待ち望み、民もまたキリスト・救い主を待ち望んでいました（ルカ三・15）。私たちも待望の信仰を働かせる教会であり続けましょう。「わたしを待ち望む者は恥を見ることがない」と主は約束されました（イザヤ四九・23）。クリスマスを超えると教会総会が

控えています。主の御導きを待ち望みましょう。さらにその先にはファミリー年會が備えられています。「私たちが持っているこの希望は、安全で確かな、たましいの锚のようなもの」です（ヘブル六・19）。待ち望む教会が放つ希望の光がこの年のクリスマス節期、各地の夜空を照らしますように。（鳶田崇志）

■11歳の「天才」がホーキング博士に対して異議を「宇宙を創造したのは神」
アインシュタインやホーキング博士といった稀代の物理学者が唱えてきた宇宙論。宇宙の始まりについて当たり前だとされてきたこれらの理論を否定する天才少年が現れた。米国名門大学に通う11歳のウィリアム・マイリス君は、「神が宇宙を創造した」ことを証明できると話したと、ニューヨークに本部を置く『エポック・タイムズ』が伝えている。

米国ペンシルベニア州出身のウィリアム君は天文学者になることを夢見ている。生後7か月で完璧な文章を話し、1歳過ぎで足し算を、2歳で掛け算を習得。9歳で高校を卒業し、11歳で名門校カーネギーメロン大学に入学。ウィリアム君は、ギリシャ正教会主教である父親の影響を受け、信仰心の強いキリスト教徒でもある。その彼が目指しているのは、神の存在を科学の力で証明すること。アインシュタインやホーキング博士の唱えた宇宙論、特に「神は存在しない」とした考え方は間違いであり、全く賛同できないと言う。ホーキング博士が言うよう



海外トピックス

「か」は「神」だとして考えられない。」とウィリアム君は語る。
■水の都ベネチアで記録的な高潮
サンマルコ大聖堂も浸水
イタリア北部の古都ベネチアは11月12日夜、過去50年で最高水位の高潮「アクアアルタ」に見舞われた。潮の監視センターによると、水位は最高で187cmに達し、記録がある1923年以降では、66年の194cmに次ぐものとなった。海抜が低い地域にあるサンマルコ広場は特に影響が大きく、同広場にあるサンマルコ大聖堂は入口付近が水に浸かった。沿岸警備隊はボートを出して救出活動に当たった。イタリア政府は14日、異常な高潮に見舞われたベネチアに非常事態を宣言。ユネスコ（UNESCO）の世界遺産にも登録されている同市では教会や商店、住宅が浸水し、被害総額は数億ユーロ（数百億円）相当とみられている。（平瀬聡樹）

災害対策委員会から

台風15号、19号の被害
支援献金を受付中
災害へ備えをしよう

災害対策委員会 鳶田直毅

この秋、襲来した強大な台風によって甚大な被害が発生しました。幸い、教団の諸教会自体の被害は大きくありませんでしたが、教会員の方々には床上・床下浸水をはじめ、多くの被害が出ました。災害対策委員会としてご支援をお願いしましたが、全国の教会より支援献金をお送り頂いており、お送り頂いた献金の中から、被害を受けられた教会ならびにご報告を頂きましたご家庭にお見舞いを送らせて頂いております。ご報告は教区ごとに主事のご労を頂いてまとめられていますが、後になって新たに被害が判明するケースもあり、その都度、対応させて頂いております。

いくつかの台風が重なりましたために対応が遅れが出てしまいました。申し訳なく思います。今後是可以る限り迅速に対応させて頂きたく願っております。また今回は、川越キングスガーデンに大きな被害があり、お住ま

いの先生方はご無事でしたが、それぞれのお部屋に帰られるまでにはなお時間を要するとのこと、ご不自由な生活を余儀なくされています。川越キングスガーデンと、滞在されている先生方にも、お見舞いをお送りいたしました。他にホーリネス、保守バプテスマ、アッセンブリー、JECANAなどの諸教会に大きな被害が出ていることは、教会宛のニュース・レターでご報告した通りです。中でも、会堂が床上浸水となり、オルガンその他の被害を受けられたミッシェル東北・須賀川めぐみキリスト教会の館脇美師は聖宣神学院の卒業生でもあり、こちらにもお見舞いをお届けしました。ボランティア活動などについては、地域によって差があり（地元ボランティアのみを受け入れるなど）、細かい情報を把握してお届けすることに限界がありますが、各教会で対応して頂いていることを感謝いたします。被災地のクリスマスにご祝福をお祈りしつつ、それぞれの教会でも備えを怠らないようにしましょう。秋に各教会に「災害伝言ダイヤル」の利用を中心とした備付用のシートをお配りしました。災害に備えて普段から地域のハザードマップを確認しておきましょう。起り得る災害の種類、避難所の場所と道順、帰宅困難者の把握、水や食料の備蓄や備品と賞味期限やバッテリーの確認など、教会ごとにご確認ください。

関東聖化交友会

第34回関東聖化大会開催

ハリマン博士を講師に迎え
テーマ「聖化と宣教」

王子教会 小林 佳

去る10月20日(日)～22日(火)にかけて「聖化と宣教」をテーマに、関東聖化交友会主催による第34回関東聖化大会が行われました。20日(日)にはウエスレアン・ホーリネス教団淀橋教会のウエスレー・ホールにて日本ホーリネス教団の安井巖先生が「愛と宣教」をテーマにメッセージを取り次いでくださいましたが、90名を超える青年たちにご自分の体験を交えながら、愛に基づく聖化と宣教について語ってくださいました。

また翌21日(月)からは会場をインマヌエル中目黒教会に移し、主講師であるヒューバート・ハリマン先生(元ワールド・ゴスペル・ミッション総理)や秋山直光先生(中京聖泉キリスト教会・東海聖化交友会会長)をお迎えし、セミナーや聖会が開かれました。

21日はハリマン先生御夫妻を迎えてのレセプションの後、「神ご自身の色(3つの完全なるミックス)」と題してヒューバート・ハ



リマン先生によるオープン・セミナーが行われ、「御父の色・御子の色・聖霊の色」と分けて、神さまの3つのご人格が持つそれぞれ特色ときよめについて語ってくださいました。

また21日の夜には聖会Ⅰが行われ、秋山直光先生を通してピリピ二章にあるキリストの謙卑の姿から謙遜についてのメッセージが取り次がれ、きよめの恵みにあずかった際の正しい方向性(より遜ること)について語られました。

更に最終日となる22日(火)の午前には女性大会が行われました。この時は証し者としてサラ・ハリマン先生がご自身のお父様の救いやご自身の宣教師としての経験談をお証ししてくださいました。またヒューバート・ハリマン先生が「物語の続き」と題してメッセージを取り次いでくださり、私たち一人ひとりが聖化・宣教と如何に密接

な関係にあるかを、聖書から語ってくださいました。

午後には学びを深める時がもたれ、「宣教の鍵きよめと宣教を考える」というテーマのもと、竿代皓子先生(インマヌエル行徳駅前教会)と星加優和先生(東京フリーメソジスト桜ヶ丘教会)による証しがなされ、これに基づきグループディスカッションがもたれました。先生方の証しに励まされたという意見が多くありました。

夜には最後の集会となる聖会Ⅱがもたれ、再びヒューバート・ハリマン先生が「わたしは背くも者にわたしの道を教える」と題して詩篇五一篇にあるダビデの姿から聖化の恵みを力強く語ってくださいました。

今回は多くの方が恵みの座に出ておられたことが大変印象的な集会でした。来年も聖化大会が恵みの時となることを願っています。

▼9月にあいついで孫が2人誕生し、私は長女のところへ2週間ほど手伝いに行きました。生まれたばかりの新生児は、泣き、飲み、オムツを替えてもらい、満足してあとはひたすら眠っています。無力で、無防備で、すべてを周りに頼りきっています。それでいて周りを自分に惹きつける魅力ある存在なのです。▼クリスマスに誕生されたイエス様も同じだったのでしょうか。全能の神であるお方が、神の在り方を捨ててこのように無力で無防備な状態になって人間の中に来てくださったのです。赤ちゃんイエスさまが生きていくために必要とされたのは、人間の愛でした。ヨセフとマリアがわが子に寄せる愛。シメオンとアンナの愛。ザカリヤとエリサベツの愛。野の羊飼いの、東方の博士たちの愛。嬰兒を囲む温かく敬虔なきよの愛でした。神さまは彼らを信頼してご自身の独り子を人の手に託されたのです。しかし一方でそのいのちを狙うヘロデがいました。残忍で愛のかけらもない人物です。先日、私はニュースを見てから寝たためか夢を見ました。追っ手を逃れてバスに相乗りし知らない土地

の一軒家に隠れました。台所の窓の外に家の中を覗く人影と視線を感じた瞬間、全身の血が凍りつきました。眼が覚めてもしばらくは恐怖で寝付けませんでした。いのちを付け狙われるとはこういうことかと実感しました。▼誕生の始めを人の愛の手に託された救い主でしたが、その最後はご自身を人間の罪の手に委ねられました。鞭打ちとつばきと罵詈雑言と憎しみの限りを受けられ、弟子たちからは裏切りと背きでした。罪のすべてをご自分が引き受けられ十字架に死なれました。けれども復活によって罪と死に勝利されたのです。クリスマスは人類の歴史でこれ以上はない大きな喜びのときです。その中で「彼は悲哀の人にして病患を知れり」イザヤ五三:3のみことばは通奏低音のように主のご生涯に響いています。旅の途中のマリアとヨセフには「宿屋には彼らの居る場所がなかった」のです。赤ちゃんイエスさまを迎えたのは家畜小屋の飼葉桶でした。しかし今、このお方は王の王として私たちの心のドアをノックされています。なんと私たちの心に住んで下さるためにです。(高梨侑子)



赤ちやんイエスさま

巻頭言

大きな大きな喜び



世界宣教局
葛田 敬子

「私は、この民全体に与えられ、大きな喜びを告げ知らせます。」(ルカ二章10節)
クリスマス、おめでとうございませぬ。この喜びの日は、今や世界中に広がって覚えられています。



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

ある国では、子どもたちも着飾って、フェイスプリントをして街に繰り出していきます。町中が静まり返って、店も閉じ、各家庭の灯りだけがともるような国もあるでしょう。「クリスマスって何の日?」とでも言うように、他の日と変わりなく動いている社会もあるいは祝うことを禁じられているような場所もあることでしょう。迎える側には様々な姿勢が見られるでしょうが「与える側」であつてくださる方は、どうでしょうか。あの初めのクリスマスの夜、羊飼いに御使いが喜びの知らせを告げた時、この恵みはアブラハムの裔、ダビデの末裔を意識する特別な民族への喜びと捉えられたかもしれませぬ。しかし、与えてくださる御方は、それを全世界、全人類に

対する喜びとして備えて下さいました。そして今、私たちはその恵みに与っているのです。
この大きな喜びの中身は何でしょうか。「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」ずっとずっと預言されていたキリストのお誕生。神さまのお約束の成就。私たちの救いの実現。人類が一番必要としているもの、私たちが本当の意味で生きるために無くてはならない救いが、経験できる現実となったのです。
羊飼いたちは、見聞きした通りのことが起きていたことを確かめることができました。しかし、赤ちゃんの誕生は、与えられた喜びの「しるし」でした。羊飼いの喜びは飼葉おけのみどりごにお会いしたことで完結したのではなく、みどりごについて御使いの伝えたことがすべてその通りであること、その通りになることの証でした。
神であられる御方が、「今日」といわれる日に「ダビデの町」というところで、本当に本当に人として生まれてくださった。そしてその御方によって、主が約束された救いが私たちのために備えられ、今私たちはそれを受けて自分のものであることができる。ただ信じるだけで。
クリスマスの主が、私たちの喜びとなっていて下さるか。この大きな喜びこそがクリスマスの中身であり、伝えるべき恵みです。



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2019年11月6日

9月に職場復帰後、たちまち忙しくなる中、11月から主任が1か月間年次休暇を取る、ということに常任に頭になりました。再赴任した私が最初の3か月語学学習で不在、副主任も産休中の中、途方もないプレッシャーと仕事量を一人でこなしてこられた主任には、是非十分な休みを取って頂きたいところですが、今の二人でも無理、という仕事量だけでなく、患者さんのご家族やスタッフ等の一触即発的な状況をまとめる人徳や語学、予算や大局をまとめる視野や手腕などの欠けは簡単に埋められません。憐れみ深い神様は、思っていたより早く産休中の副主任を戻して下さりその不安に答えて下さいました。自分より頼りになる副主任の彼女が11月に勤務しているだろうということは、とても大きな励みです。
主任関係が3人となり、看護学生と看護助手学生と麻酔科助手学生との同時実習や、看護学生が今ま

でのグループ6人位から一気に12人位に増えたことなどの中でも守られています。
テヌウェク初の常勤麻酔科「医」の先生も無事加わられました。以前研修医としてテヌウェクで研修されていたK医師でした。今は現状と理想と折り合いをつけているといったところでしょうか。
主任関係が3人いる今のうち、ということ、今まで手が付けられなかった手術室の一斉清掃や、週末や休日を利用した倉庫整理等が行われました。それで判明した事の一つが、病理検査用の空き容器的の在庫が非常に少ないという事でした。日本から自分で出国前に送った小包の中に、色々な教会からお預かりした空容器も入っているはずだけれども、到着まで1年位かかるだろうと思われること。未だに現地での十分な調達困難なこと。経験上、今ぐらいの月から来年2月位まで日本からの小包がしばらく届かなくなるだろうということ。対して、これから年末に向けて各地の病院が休みに入ると、学校や職場が長期休暇に入ると人々の移動や行事が多い中、手術の件数は今までも増加するであろうこと。もうもろを考えると、暗澹たる思いでした。「あなたは何でもお出来になる方ですから、どうか、どうか」と、助けて下さい、とお祈りするしかありませんでした。その翌日、勤務した休日の分1日休みを頂いてボメットの郵便局に受け取りに行っ

た5箱のうちの幾つかには、各種の空き容器がぎっしりと入っていました。本当になんでもお出来になる方なんだ、と感謝、感動、感激、畏怖、感涙、等々が入り混じりました。同じ週に別の5箱が届きました。その次の日は、週末勤務した分の休暇を1日頂いて11箱を自分で取りに行きました。その数日後、病院宛の6箱が届きました。包帯も沢山あり、感謝です。昨年の10月、11月頃発送された物もあれば、到着まで一年かかると思っていた、自分で今年の5月と6月に発送した物もありました。長期間かけてたっぷり荷物を積んだ大きな船が入港して荷下ろししているようです。背後のお祈りと御労と御愛に感謝しながら、色々な方の助けを頂いて、開封、記録、配布を進めています。出来るだけ早く各教会にお礼状を送りたいと存じておりますが、まずはこの場をお借りして、心からの感謝を申し上げたいと思います。

主任がいる今のうち、と、週末に少し遠出をして、結婚を1か月後に控えた手術室スタッフの実家でのお祝い（お別れ会の意味を持つ）にも手術室のスタッフと一緒に参列を許されました。ラケルとレアではありませんが、すっぽりと現地の布に包まれた数人の女性の中から、新郎予定の男性が新郎予定の女性を無事選ぶことが出来るだろうか、という企画（間違えるたびに罰金、だそうです）等もあり、楽しいひと時でした。■

「この福音は、あなたがたが神の恵みを聞き、それをほんとうに理解したとき以来、あなたがたの間でも見られるとおりの勢いをもって、世界中で、実を結び広がり続けています。福音はそのようにしてあなたがたに届いたのです。」（コロサイ一章6節）

いつも尊いお祈りとご支援をありがとうございます。台湾では、例年より少し早く、朝夕に涼しさを感じる気候となりました。とは言え日中はまだ30度を越える日が多く、一日の気温差の大きな時期、体調を崩しやすい時期を迎えています。九月の新学期からはや1か月が経過し、市内の小中高校では、学年最初の間テストの時期で、カフェやティースタンド、マクドナルドなどのイトイン・スペースで自習している姿をよく見かけられるようになりました。

先月に続き、今月も日本からのゲストをお迎えすることができ、大きな恵みの時となりました。



平瀬義樹・光世*2019年11月7日

た。20日には、豊田教会の根岸兄弟を、又、27日には富士見台教会の大間兄弟が聖日礼拝に出席して下さいました。特に、27日の礼拝は、数年前の宣教訪問チーム「富士見台湾2」として、信仰の証しと特別賛美のご奉仕をして下さいました。ありのままの真実な証しの数々、ご夫妻の醸し出す信仰のハーモニーの美しさに魅了される時となりました。礼拝後の台中教会の兄弟との打ち解けた語らいの様子を見、そこに加わりつつ、大きな励ましを受けていました。

日本からのゲストの来訪は、現地の台中教会にとって特別な恵みの機会、信仰のチャレンジの時です。愛兄弟方が海外出張や学会の旅を調整し、わざわざ台北から台中にまで足を延ばして、旅先でも聖日礼拝を厳守している姿は、信仰をもつて間もない兄弟には、衝撃的な光景に映るようです。「信仰生活には、オフ（休暇）はないですね。そろそろですよ。オフでも生活しているし、信仰は休みじゃないから。」ある兄弟が独り言を言い、自分で自分の言った言葉に納得している姿に接し、「アーメン」と頷きました（心の中で）。台湾では、信仰生活の地道な歩み、集会出现の習慣化が課題である場合が多く、生きた証人の存在は何ものにも代えがたい学びとなります。ゲストの来訪は、教会だけではなく、私共にとっても、又、我が家にとっても、大きな語りかけと働きへの示唆、調整



チャレンジを受け取る機会となります。思春期を迎え多感になった子どもたちが来訪された兄弟の信仰の証しに触れ、その姿勢から学ぶ模範であり、実物教訓となりました。礼拝後の交わりと語らいを通して、特にゲストから寄せられた質問の数々に返答しつつ、台湾の宣教の働きに強い感心を持ち、背後でどれほど教会をあげて祈って下さっているか、宣教への深い情熱を痛感しました。「論より証拠。通常の誌面や宣教DVDの報告では知り得ないことを実際に来ることではじめて知りました。その働きについての理解が広がりました。」「あつという間の滞在でしたが、帰りのスーツケースのようにいろんな恵みがぎっしり詰まった旅行だったと思います。台中教会の様子は教会の皆さんにお分かちして、さらにお祈りに覚えたいと思います。」との言葉に、心より感謝しました。■

「キリストは、神の御姿であられるのに……ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。」

（ピリピ二章6〜7節）

この御報告を認めているいま、御降誕節は2か月先……暑さの中、半袖姿での11月2日、午後です。窓から容赦なく差し込む西日に部屋の温度は30度！ 祖国の皆様方は真冬の御降誕節季の中でこの報告を御覧になるということを思いつつ筆を進めております。11月19日の再赴任を前に御報告を認めております。

9月末、ヴァンディ師御一家は予定より、早くダビデ君の過去2年間の治療成果の診断のため、テス夫人の御実家、比国に出発されました。留守の教会の2回の聖日の御用を託されたマーク宣教師はクメール語が話せないため、弟子訓練中にあるノール姉が、これまた英語はたどたどしいまま、通訳の御用に当りました。「強いられ



葛田緑乃*2019年11月1日

「た恵み」のご訓練を通して徐々に「弟子訓練」がなされていることも感謝です。神様の御働きは時として進むどころか、大丈夫？と思うような時もあります。しかし「確かに」御霊が教会を建て上げておられることを見る事ができます。これは大きな恵み、皆様方の御祈りの結実と見て感謝申し上げます。

お祈り頂いてます。テス夫人の就労に関して、大学から賃上げと共に仕事の継続依頼がきました。ヴァンディ師は「賃上げより土曜、日曜の出勤が取り下げられない限り、主の御心ではないと判断して断るつもり」と揺るがない主への献身と信頼の道を歩む彼らに、主が御一家の生活費を責任もって満たし、「静かに、しかし確かに」御業を進めて下さることを信じてひたすら祈る日々です。写真はヴァンディ師御一家です。



クメール・キリスト者と共に御降誕節をお祝いしている小さき者と諸教会が、真の意味で冒頭の聖句にならう姿となり、意味のある御降誕節を過せるように御祈りく

ださい。長期滞在を予定してましたが、高齢者免許書更新手続きのため、2か月で余儀なく帰国します。片づき次第、再渡航を予定しておりますので、御祈りください。



10月に入り、ザンビアは未だ雨が降らず、水不足が続いているようです。影響は作物にとどまらず、ダムの水力発電に頼っているザンビアは節電のために毎日15時間以上の停電が続いているようです。電気が安定しない中で様々なところに影響が及んでいるようです。報告帰国のために9月30日にザンビアを発ち、10月2日に日本羽田に無事に着きました。お祈りありがとうございました。秋になりかけている日本であったこともあり、とても過ごしやすい季節で感謝しています。今のところ体調も崩さず過ごすことができ感謝です。帰国後、いろいろな方に久しぶりにお会いでき、とても感謝な

日々を過ごさせていています。我孫子にあるミッションハウスという備えられた場所が与えられており、時間がある時は近くに手賀沼というゆつくり散歩できる場所です。日本の秋を楽しませて頂いています。ザンビアから来ると、改めて日本は先進国なんだと感じ日本の素晴らしさ豊かさに驚き、戸惑いながら徐々に適応していつの間にか帰国後、何度か大きい台風に遭い、日々変わる日本の天候に驚きました。ザンビアでは毎日天気予報を見る習慣がなかったため、ある日天気を知らずに外出し、ひどい雨にあたり驚きました。23日は仙台教会の祈禱会で今回初めての報告をさせて頂きました。不慣れた報告にも皆様暖かく迎えてくださり、また良き御交わりの時を持つことができました。巡回報告が始まりますので、よろしくお願ひします。

日本への帰国後、ジェンボのクリニックのスタッフから何度か連絡があり、ネット通話やチャットで指示を出したりすることがありました。日本とザンビアが離れていてもインターネットを通してコミュニケーションがスムーズに取れたことに驚きとともに感謝しました。このようなコミュニケーションを通してザンビアの様子がわかることができありがたいです。

.....

■会計報告10月分
宣教献金 一、二七七、六八九円
月平均 一、七七六、八九四円

お祈りの課題

- ◆ 香港(鹿島)
- ◆ 新しい場所での今年のクリスマスのお祈り
- ◆ 香港の社会秩序の速やかな回復と傷ついた魂の癒しのため
- ◆ 牧師たちの健康と出入りの安全のため
- ◆ ザンビア(富澤)
- ◆ クリニックでの働きに順応できるように
- ◆ クリニック、スタッフが主を意欲して奉仕ができ、主に栄光が返してできるように
- ◆ ザンビアに必要な降雨のために
- ◆ ジェンボクリニックのため
- ◆ 日本においての巡回が祝されるように
- ◆ 台湾(平瀬)
- ◆ 11月17日、梅田登志枝局長を迎えての世界宣教聖日のため
- ◆ 台中教会と台南日本語礼拝を通して、救われる方が続けて起こされるように
- ◆ クリスマスに向かう台中教会・台南日本語礼拝の働きのため。さらには加えられる方がこれからも与えられますように
- ◆ 子どもたちの将来の導きと進路のため(我が家は2人とも受験生です。明里は大学、勝大は高校)
- ◆ 台湾の政治や経済、治安の安定のため。年明け早々の総統選挙(1月11日)の平和な実施のため
- ◆ ケニア(鳥田就子)
- ◆ もう一人の副主任が職場復帰し

- ◆ たこの感謝
- ◆ 主任不在の11月の御守りと導きのため
- ◆ テヌウエク病院の働き人(ルカ一〇章二節)特に麻酔科と検査室、整形外科医の必要の満たしのため
- ◆ 健康が支えられるように
- ◆ カンボジア(鳥田縁乃)
- ◆ 霊的なタッチを必要としているアロン牧師のため、主への全的信頼の霊が注がれ、信仰による働き人と成長されるように
- ◆ 2か月間の短期滞在で、果たさねばならない使命が果たせるように
- ◆ 寒暖の差の激しい気候変化の中に、健康が支えられ、宣教の働きに支障が出ないように
- ◆ フィリピン(豊田)
- ◆ クリスマス休暇に入る学生たちがサタンからの誘惑、攻撃から守られるように
- ◆ 神学教育の働きのために。常書は2科目(「ダニエル書・黙示録」「聖書解釈」)を教えています
- ◆ 事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのため
- ◆ グローバルユースミニストリー(鳥田康毅・由理)
- ◆ 聖日午前の中国語礼拝(重牧師が担当)と午後の日本語のバイブルタイムが祝されるように
- ◆ 深川教会をお借りして始められた月1回の中国語と日本語/英語のプログラムが祝されるように
- ◆ GYMの来年以降の働きのため、特にその責任を担う安達長老のために

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

平凡・スーパースター

院長 ● 河村 從彦

「その子の名をイエスとつけた」
 (マタイ・25)
 毎年命名ランキングというのがあります。最近読めない名前もありますが、イエスという名前はどこにでもある名前でした。
 イエスさまは普通の人として生まれてくださいました。しかし実際は普通ではなく、人並み以下でした。マルコ六章3節には、「この人は大工ではないか。マリヤの子で」と書かれてあります。
 当時、大工は石切工のようなさげすまれる仕事、マリヤの子は恥辱の呼び方でした。父親の名前を使って「この子」と言うのが普通

の社会で、母親の名前が出て来るのは異例のことで、父親がだれかわからない子、というニュアンスを出してくる、つまり「罪の子」という意味にも取れました。
 他方、キリストは、メシア・油注がれた者、ヘブル人がこぞって待ち望むスーパースターです。
 マリヤの子とキリストのミス・マッチ、このギャップがクリスマスです。「平凡・スーパースター」、「どんくさいオッサン・白馬の騎士」みたいな感じですよ。天の恵みと地の現実を結びつけ、恵みはわたしたちの地平から見るとよく見えるという、福音の中核です。初



お昼の食事 食堂でのひとこま

代教会はこれを伝えました(使徒二・22、三・6、四・10)。
 イエスさまの誕生と生涯のキーワードは「埋没」です。キリスト者の生き方は目立つ「特別」を目指すものではありません。世との難しい接点を抱え込みながら「フツー」の人であっていい。弱さもあっていい。主のように造りかえられるとはこのことです。
 律法主義はわたしたちが立派であることを求めます。福音はわたしたちにフツーであることを許します。弱さと罪の現実の中にこそイエスさまがともにおられるのがクリスマスです。
 平凡とスーパースター、どんくさいオッサンと白馬の騎士、どちらの側から見たら恵みがわかるのでしょうか。フツーの側からです。わたしたちもフツーでいいのかなと思います。

神学エッセー

ディボーションと分かち合い

③分かち合う



内山 勝

ディボーションが続かない方が多いのは、どの教会でも共通した課題です。ディボーションが大切であり、自分にとって必要であると自覚していても、毎日継続することは簡単ではありません。ただのノルマのようになっても、無味乾燥で、読んだという事実はあっても、ほとんど心に残りません。これもむなしいものです。
 ディボーションを継続するのが困難な一つの理由は、それが孤独な戦いになっているからではないでしょうか。
 ■個人戦から団体戦に
 夫婦で、家族で、数人の友だちで、あるいは教会全体で、毎日読む聖書箇所を同じに決めてはどうでしょうか。しかも、一日に読む量も、一章とか二章という長い範囲ではなく、前回お勧めしたように、数分で読める程度にします。これについては、いろいろなディボーションガイドが発行されているので、良さそうなものを採用されるのが簡単でしょう。

そのようにして、みんな毎日同じ箇所を読んで行くことによつて、ディボーションを個人戦から団体戦に移行させるのです。
 ■分かち合いましょう
 もし同じ箇所を読んでいるなら、共通の話題ができます。今日読んだ箇所から教えられたこと、励まされたこと、新しく気づいたことなどを、気軽に分かち合うことを始めましょう。私どもの教会では、メーリングリストで毎日分かち合っています。毎日コンスタントに加わるのは数名ですが、40名以上の方が毎日、それを読んでくれるようになります。その日に読んでいない人にとって、それは刺激となり、明日は読んでみようという動機付けにもなります。また、自分が読んだ時には心に留まらなかったことを、別の人がコメントしているのを、恵みが広がって行きます。
 ■分かち合いの注意点
 ・互いに評価しないで、そのまま受け取ることを。
 ・議論しないこと。どれが正しくどれが間違っているということはありません。聖霊がその人に語られたのですから尊重しましょう。
 ・良い格好しないこと。誰かに教えるために分かち合うものではありません。分かち合うために読むのでもありません。主から自分に語られたことを素直に分かち合えば良いのです。
 ・互いのために祈ること。継続すると互いの傾向性が分かり、さらに祈れるようになります。

◆インターン 半年を経て

テイクオフを日ざし

正規コース 竹内俊之

「ですから、私の愛する兄弟たち。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主にあつて無駄でないことを知っているのですから。」

(第一コリント一五章58節)
いつも神学院と神学生一人ひとりへの尊いお祈りとお働きを誠に有難うございます。姫路教会でインターン実習生としての学びが始まり、半年が過ぎました。

着任し、最初の2か月は規則正しく守られる聖日(主日)礼拝と祈禱会を定められた聖なる時として滞りなく、穏やかな静まりの環境を肅々と保つこと。そのためには教会が立地する町内会や行政、消防、警察、取引ある銀行や保険会社等々、との良好な関係の維持と発展に心身を傾けつつ、今は神学生として、近日中には牧者としてこの現場でどう振舞うべきか? 霊的には神学院内の学びが、牧会現場で何より聖書のみことばを福音として、今も、ここにも生きて働いてくださっているイエスキさまの臨在を生き生きと語り継が

させていたきたい! そんな思いで過ごしています。特にここ姫路では8~9月にかけて会堂改修工事や火災保険の更新等の稀にしか行われない希少な経験をさせて頂きました。

インターン実習中の毎日はこちらに書き切れないほどに学びのレアケースな事象が、次々と起きては悩まされ、しかし不思議と納得できる御心が示されてきました。それは、偶然に聴いた、恩師の藤本先生の説教の一節から導かれた解決への導き。それは自らの肉なる想いからくる「傲慢」を気付かせてくれました。思い悩みすべては、牧者として飛び立つ前の離陸時の航空機内のガタガタ揺れのよう、テイク・オフ! 主と偕に。

◆神学院の学びに迎えられる

向こう岸に渡ろう

聴講生 石川牧子

この秋、聖宣神学院の聴講生として学びが許されました。半年前、夫が一足先に神学生の歩みを始め、私と娘も家族寮に入り、既に想像を超える恵みをお与えになるお方が共におられることになだり倒されていきます。夫の学びの恵みを聞く中で、ここでの学びは勉強であ

る以上に、キリストの愛を深く知り、愛する者へと変えられる場だと知らされています。

夫の献身の思いは既に結婚する前から聞いており、いつかその道を進むことも心に留めて歩んでいました。結婚、出産を経て、子育てに奮闘して、『献身』という言葉が薄れかけていた時、夫から献身の思いを告げられました。正直幼い娘の子育てに精一杯で不安が隠せませんでした。ここから夫が献身に導かれるまでの数年、サタンの攻撃と闘いが続き、その度に「それでも付いてくるか」という問いが投げかけられ、その度に「主が入り用なのだ」と語られました。その中でイエス様は私に「一緒に向こう岸に渡ろう」と言ってお下り、私は妻として献身を支える決心が与えられました。その後、神様の声を聞く思いで



後期の授業風景 佐藤信行先生の旧約聖書概論I

神学院のオープンキャンパスに家族3人で参加し、この時、主は夫婦での献身の道を示されました。自分の献身を投げかけられ、心が騒ぎました。その後1か月、深く思い巡らす中で、痛みの中にあるたましいに寄り添う中で、私が体験したイエス様の愛の働きが次々思い出されていき、主は「涙とともに種を蒔くものは喜び叫びながら刈り取ろう」(詩篇一二六・5)とはっきり呼びかけて下さり、この時、私自身を主にお献げする決心を致しました。大切な娘の母である使命の中で、主の声を聞きながら、時間をかけて主の働きの学びをさせて頂きたいと願っています。

◆インターン実習の中で

日常から教えられる誠実さ

正規コース 峯尾仰生

「神から来る純真さと誠実さをもって、肉のな知恵によらず、神の恵みによって行動してきたということ。」IIコリント一・12 尊いお祈りを感じたいと思います。インターン実習が始まって早々に沖繩の歯科に行きました。入った瞬間の何気ない温かな雰囲気そして歯科医と看護師から受ける

配慮ある一つひとつの言葉と丁寧な説明。歯科を出る時には最初にあつた不安が「安心してここにお任せできる」という思いに変えられていました。その理由の一つはシンプルな誠実さがあつたからです。ただ診察をこなしているという感じは一切なく、私の話を真剣に聴いてくださり、そして痛みと共に向き合ってくださいださる誠実さがあつりました。

このような誠実さはこれまでの実習先でも実感し、そしてインターン実習先の日常からも教えられるおられます。共に主を見上げ、共に祈り助け合い、お一人おひとりができる範囲で教会に仕える誠実な姿勢。このような先生方や信徒の方に支えられていることを実感する時、慣れない地での緊張が少しづつ解きほぐされております。限りある大切なインターン実習期間、時間を大切にしつつ、最も誠実である主と共に学びと奉仕に励みたいと思います。また神学院で学んだことを実践の場で新たに深められ、整理し続けられることも願っております。失敗が多いのですが今後とも皆様のお祈りに覚えています。

この度、卒論のアンケートにご協力いただいた皆様には心より感謝申し上げます。お手数をお掛けしたこと、誠に申し訳ございません。貴重なご意見を通して現実に向き合い、私自身が地に足の着いた、主に喜ばれる奉仕者へと変え続けられることを信じております。

私の神学生時代 恵みの証し人に変えられ 20期生 ● 新沢昭彦



私が聖宣神学院に入学したのは、1968年でした。前年10月には、ピリー・グラハム国際大会が開催され、神学院は浦和から横浜の西八朔に移転した初めの年でした。イムマヌエル総合伝道団は、葛田二雄初代総理の指導の下に「聖」と「宣」を掲げて、宣教の霊に燃えていました。

私は日本宣教会から委託生として入学しました。恥ずかしいことですが、イムマヌエル総合伝道団がどのような教団か、聖宣神学院がどこにあるのか、そして入学願書を提出していたのですが、選考試験日がいつかさえも知りませんでした。ただ、指導者の先生方にお任せして、服従していろいろとだけ考えていました。そんな私ですが、入学が許され、学びと訓練の機会をいただきました。

当時、藤が丘駅から、神学院までの道は分譲地の造成中で、東名高速の陸橋を渡った先は、人家はなく、神学院は人里離れた林の中にあいました。

葛田二雄先生からは教義の「神論」、「メソヂズム」等の授業を受

けました。特にメソヂズムには力を注がれ、授業の始まる時間はメソヂストなのですが、終了のベルが鳴っても、授業は続きました。木曜日の二時限が「メソヂスト」の授業で、その日、丸ノ内教会の祈禱会へのミッションがありましたので、授業が終わると、急いで宣教会に乗って、丸ノ内の新国際ビルにある中央教会に向かいました。葛田二雄先生より受けた授業は貴重な恵みと挑戦の時でした。

その他にも、葛田眞實先生、公義先生、竿代忠一先生、信和先生、朝比奈寛先生、等々、霊的にも知的にも優れた器より授業を受け、幸いな神学院時代を過ごさせていただきました。

私の所属している日本宣教会は、「恵み」と「敬虔」が強調されています。けれども神学院では、「デシプリン」が重んじられています。行動、服装、人間関係にも規律があてはめられていました。粗野な私には規律にあてはまらない事が多くありました。けれどもよい指導者、先輩、同輩と共に寮生活を過ごして、天国にいるような喜びを感じて過ごしました。

神学院に入学する以前に、新生、聖化の恵みは頂いていました。けれども受けた恵みに、確信をもって証しをすることができない状態でした。けれども神学院の学びを通して、受けた恵みを整理させていただき、伝道者として生きる基礎を築いていただき、感謝しています。

同窓生の近況

47期生
香港教会 ● 鹿島義喜



1999年に4年間の訓練を終えて主の畑に遣わされました。香港からの委託生でしたので、母教会に招聘されました。2年間ごとの契約でしたが、5期10年間ごえさせて頂きました。牧師の招聘規約の変更とともに母教会での奉仕を終える時がきました。祈りの中、伝道者としての訓練を頂いたイムマヌエル総合伝道団の教職者に加わるように導かれ、香港におけるイムマヌエル教会の開拓と近隣地域の邦人伝道という使命を与えられました。それから10年が過ぎ、香港イムマヌエル教会も受洗者が与えられました。一方で90歳の姉妹を天にお送りしました。また多くの兄弟姉妹を日本や世界各地に送り出させて頂きました。日本のイムマヌエル教会で元気で主に仕えられているという知らせは、私たちにとって大きな励みです。その中でも、香港の教会と協力して送り出した翻訳宣教師のご夫妻が日本で奉仕されていることは感謝です。私たちも健康が許される限り、最後まで忠実でありたいと願っています。(黙示録一・10)

この年を振り返る時、多くの恵みを頂きました。

① 神学生の存在。毎年メンバーが変わるのでとても楽しいです。それぞれから教えられ、その存在に牧師として励まされます。② 信徒奉仕者の存在。信徒の職員が増えました。また変わりなく台所・図書館・営繕奉仕者が毎週来られています。特に喜びながら仕えている姿勢に学ばせて頂いております。③ 自然豊かなキャンパス内の果実など。桜・薔薇・紫陽花など今年もきれいに咲きました。びわ・柿・みかんなど今年も美味しく頂きました。

あたりまえのように過ごす日々ですが、貴重な時を大切にしながら、新しい年も期待したいと思えます。(詩篇一〇三・2)

神学院スタッフ…恵みの想起

2019年の恵みと感謝

経理課 渡辺真理

● 年会を含めた教団集会でキャンパスを有効利用することを視野に、厨房の改修工事を行います。築30年を経て、老朽化によるガス器具等の危険、衛生面の見直しを中心に、信徒奉仕者のご意見もふまえてメンテナンス委員会でも検討、教団運営委員会で承認されました。

● 年会受け入れに向けての整備・年会に皆さまをお迎えするため、信徒のご愛労によって本館の片づけが行われています。

● 本館2階の教室は宿舍として使用する可能性があり、カーペットの張り替えを行います。貸しベッドが検討されています。

● 70周年記念事業の第3期工事は、本館屋根を塗装、ベテルハウス前の土留めを行います。

● ベテルハウスご利用の際は、商大側のベテルハウス門をご利用ください。駐車は20台可です。

学苑だより



サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。10月の会計報告をさせていただきます。

10月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥539,650

教会団体による「神学院献金」
¥341,660

合計 ¥881,310

その他の献金 (一時・特別)
¥144,500

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

2019年 祝 降誕節

「ご覧下さい。私は主のはし
ためです。どうぞ、あなたのおこ
とばどおり、この身になりますよ
うに。」(ルカの福音書一章38節)
アドベントに入りクリスマスに
向けて歩みを進めます。救い主キ
リストを待ち望み、お迎える喜
びがわたしたちにあふれますよう
に。各教会のクリスマス諸プロ
ラム、年末年始の諸集会において
主の恵みが証しされ、主の栄光が
表されていきますように。また、
各教会に導かれる方、洗礼の恵み
にあずかる方が興されともに喜び
を分かち合えますように。

■本 部

例年この時期に全国の教会では、「クリスマス・下半期感謝献金」を実施されます。主への感謝、働き人への感謝を表すための献金に、愛兄弟方のご協力をいただきたく
よろしくお願いいたします。

《牧師・会計担当者へお願い》

教会年度の区切りを迎えますが、各教会は通常会計だけでなく、会堂会計、予備会計などの特別会計の会計処理を明確にして、1月に持たれる教会総会に備えましょう。

なお、年報など新年度事務報告書類一式を、12月3日付で本部から発送いたします。提出期限は1月21日(火)となっておりますの

で、遅れないようによろしく願
いいたします。

書類の中に、2020年度の「教団主要行事予定表(暫定版)」が含まれています。予定に関して、修正や付加の情報がございましたら、本部総務局までお知らせください。年会時に確定版を出します。
《年末・年始の業務》

本部 12月17日(火)まで
1月7日(火)から
出版 12月19日(木)まで
1月9日(木)から

《新年聖会》

明年年頭も各地域で新年聖会が予定されています。今から、年始の聖会に出席することを予定に組み入れ、新年の良きスタートを切らせていただきますように。

《第75次年会》

来年の年会は2020年3月25日(水)〜27日(金)の日程で、聖宣神学院を会場に行われます。初日の受付開始は午後1時です。最終日は午前の聖会、教職按手式、任命式で終了となります(11時半終了予定)。

■国内教会局

一年の締めくくりの月、各教会ではクリスマスの洗礼式を目指して備えがなされています。求道者方々が明確な救いに与られ、受洗へと導かれるように、教会全体で祈りましょう。

《伝道サポートシステム》

▽先月もたれた国内教会局運営委員会にて、来年度の伝道サポートシステムの検討がなされ、五教会

(十和田、鶴岡白山、白鳥、小松、金沢泉、宮崎)の申請が承認されました。それぞれの教会における働きが豊かな実を結ぶことができ、ますようお祈りください。

《女性牧師部リトリート》
日程：2020年6月22日(月)〜24日(水)

会場：国立女性教育会館(又エック)
講師：石川紀和子師(チャーチ・オブ・ゴッド御幸教会)

■世界宣教局

▽救い主のお誕生を心からお祝い申し上げます。全国の教会また会員の方々がお献げくださいましたお祈りと尊いご献金によって、この一年も、ともに世界宣教の働きを進めることができ、心から御礼感謝を申し上げます。

▽今年も宣教コイン献金にご協力いただき感謝いたします。来る1年もご協力をお願いいたします。なお本部送金の際には通常の送金ものと区別して「宣教コイン献金」と明記してご送金ください。

▽根廻恵子宣教師(ザンビア)は明年3月まで巡回なさいます。(申し込みは葛田敬子師まで)

▽富澤香宣教師(ザンビア)は健康調整のため一時帰国し、今月ザンビアに戻られます。

▽葛田緑乃宣教師(カンボジア)は11月から明年1月までカンボジアに行かれます。

▽鹿島義喜宣教師(香港)は先月、広州で御具合が悪くなり、搬送先の病院で心臓ペースメーカーの手

術を受けられました。教会は幹事がたよって守られています。

《IWF関係》

▽11月19日(火)に秋のIWF理事會を本部で開催しました。

▽IWF基金は、申請すれば、IWFの宣教師を教会に招くための支援、また教会堂の修理や改築費用の融資のために用いることができます。お問い合わせは委員の梅田登志枝師まで。

■聖宣神学院

▽年会受け入れに向けてキャンパス整備が行われます。「学苑だより」をご参照ください。

▽第7回BTCリトリートご案内
12月29日(日)夜〜31日(火)午前。聖会の講師は内山勝先生。教会申込は8日(日)です。聖会は一般公開です(参加自由)。

▽神学院祈り会は3日(火)、午後6時から本部会議室で。奨励は内山勝先生。

▽後援会からのお願い
各教会の世話人のご登録をお願いいたします。

▽ベテルハウスについてのお問い合わせ・お申込みは学務課・馬場姉まで。

▽ベテルハウスご利用の方は、静かな神学教育環境確保のため次のことにご協力ください。

(1)キャンパス内は通行できません。商大側のベテルハウス門からお入りください。

(2)駐車はベテルハウスの駐車場をご利用ください。20台駐車可です。

■出版事業部

すでにご案内の通り、消費税増税に伴い、2020年1月号より定期刊行物価格が改定されます。

①教報・現行 100円(税込)
改定後 110円(税込)

②つばさ・現行 200円(税込)
改定後 220円(税込)

書籍の販売価格も改訂されます。またリーフについては割引制度を設けます。詳しくは各教会へ送付された案内文書をご覧ください。

消息報告



▽下関教会の久芳ブランドン師、いずみ師ご夫妻に、11月5日、第一子、ご長女が誕生されました。お名前は「聖歩子(みほこ)」さんです。祝福をお祈りしましょう。

▽災害対策委員会では台風被害への支援献金を受け付けています。本部の振替口座に災害支援献金と明記してお送りください。

▽長崎教会の新会堂は今月完成引き渡しが行われ、来年2月24日には献堂式が行われる予定です。

第75次年会に向けて 年会準備祈禱会

*

日時 2月3日(月)
午後2時〜3時30分
会場 東京・御茶ノ水
OCC411会議室

教報PDFパスワード#3340

発行人 内山 勝 編集者 寺村秀嗣
発行所 東京都千代田区神田駿河台一

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇
OCCビル イムマヌエル綜合伝道団本部

新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込)
郵便振替 001107133609